

東京ズカップ

東京ズカップ



東京ズカップには左写真のオーシャンボーイという船で参加しました。

アメリカでは今、かなり盛んな船で1-D-35という船です。結構速いんだこれが！とりあえず船の話はこのぐらにして今月開催されたレースの内容について少しお話ししよう

まずレースコースですが、私たちのエントリーしたクラスコースは、大島の元町港をスタートし、ウェザーマーク回航後利島を回航、そして大島の東を通過し久里浜沖ゴール、といった感じです。

スタート時刻は11時10分りコールも無く綺麗なスタートでした。我々はほんの少し遅れましたが・・・



ウェザーマーク回航後、利島へ向かうレグはおそらく北北西の風だったと思いますが、利島へ向かって右と左の海面にレース艇は大きく分かれしました。我々は若干左目のコースを取りブローに合わせて左へ右へと巧みに船を走らせ、利島をトップで回航しました。途中我々よりも左へのぼしたラッキーレディーという船は、利島回航手前でブローラインから外れてしまい脱落してしまい、そ

して右へのぼした船のほとんどがあまり良くなかった様です。

利島回航直前から今度は私のヘルムに変わりました。島の回航はとても難しくあまり寄せてしまうと島のプランケで船は止まってしまうし、あまり離してしまうとロスしてしまいます。島の回航は風、それから島の形によって様々です。場合によっては潮の影響も関係してきます。今回は利島に結構寄せた回航をしました。島の下手に入ったときやはり風は無くなり『ヤバイッ！』と思いましたが、少し我慢すると島の反対側から吹き込んでくる風を拾い、とてもいい感じで船は走り出しました。結果、島に寄せたことによって島を回りこんでくる風を最初に拾い、艇は島の形に吸い寄せられるように上り

始めました。我々はここで後続艇とのアドバンテージを築き中盤のセーリングもかなり楽なものとなりました。(楽といっても手を抜いたわけではありません・・・)

利島を回航して次は大島の東を目指し船は快調に走っていたのですが、ここでついに



風に見放され大島まであと少しというところで船は止まってしまいました。ずいぶん長い間船が止まってしまい、一時は艇速0ノットなんて時もありました。

大島を過ぎた頃に東のいい風邪をもらい艇はスターボー上り一本コース！この頃からだんだんと空が暗くなり後続艇の位置確認が次第に出来なくなり、ここからが本番(今までも本番ですけどね!)。というかここからが勝つか負けるか非常に重要だという

認識を持ってセーリングしないとディスタンスのレースは勝てないということです。

他の船が見えているときは、自艇とのボートスピードの差や、ブローの位置など様々な状況によってレース展開を組み立てられるが、日が落ちてしまえば頼りになるのはGPSとデジタルで表示されるある一定の情報のみだからです。

さて日も沈み、残りの距離も約三分の一初回で築いたアドバンテージがだいぶ後半のセーリングを楽にしてくれました。

がっ！しかしここでまた無風状態がやってきたんですよ・・・暗くなってからの無風はかなりこたえます。



なぜなら、他艇の所は風があるのではな

いか？このコース本当はあまりよくないのか？など考えればきりが無いです。ここでいかに自分たちの力を信じ、走れるかが問題です。ゴール直前一度見失った小松さんの乗る



47.7 フィートの船が我々の上を通過しチーム全員がく然としてしまい最悪でしたがフィニッシュ後に『ファーストホームおめでとうございます！』というアナウンスを聞き、息を吹き返したように全員の顔がほころび喜びに変わりました。(あの船は何だったんだろう?)

最終フィニッシュタイムは8月4日2時25分45秒で2位に34分27秒差のファーストホーム(トップフィニッシュ)そしてクラス総合優勝でした。ずいぶん疲れましたが、ゴールする時の達成感がなんとも気持ちがよく、こういったレースも良いと感じました。

私はもともとディンギーのりですが、色々な所、国で色々な経験をして感じた事を最後に少し御話しようと思います。

一つの船に乗り続けることも大事ですが、可能であればもっと色々な船に乗り自分の中にあるトータルセーリングのレベルをもっともっと高めるべきです。そして私が感じるのは、ホントに上手な人であればどんな船に乗っても常にトップクラスのセーリングが出来るはずです。

今皆さんが乗っているディンギーでは感じられない何かクルーザーにはあるかもしれないし、ディンギーの中でも様々な種類の形があります。無理に乗れとはいいませんが、他の船にも乗って自分の船には無い何かを探してもいいのではないかと、言う事です。

今後、皆様のセーリングに必要な物や技術は意外と他の船に乗ってみると簡単に見つけることが出来るかもしれません・・・



長々と書いてしまいましたが

これはあくまでも私の経験と其中で感じたことを文章にしたものです。
神奈川ユースの皆様にも是非このような経験をいつかしてもらいたいものです。

有難うございました。

永山和徳